

	中期経営目標概要	短期経営目標概要	具体的方策の例示	概要	取 組	1学期		3学期		次年度への改善案	学校関係者評価(12月・3月)																														
						生徒	保護者	生徒	保護者		評価	コメント概要																													
実 社 会 に 生 き て 働 く 学 力	<p>主体的に学ぶ姿勢を重視し、協働的な学びと個別最適な学びの相乗効果を図り、自ら課題を見出し解決を図る実践的な課題解決力や「実社会に生きて働く学力」を養う。</p> <p>新たな社会や学校における基盤的なツールとなる ICT も最大限活用することにより、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく育成する「個別最適な学び」と、子供たちの多様な個性を最大限に生かす「協働的な学び」の一体的な充実を図る。</p> <p>学習課題に向けて自ら考えを形成しながら、対話的・協働的によりよい課題解決を図る力を養う。</p> <p>ICT やタブレット端末を効果的に活用するなど、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく個々の生徒の特性とニーズに応じた「個別最適な学習」を実現し、個々の資質・能力の効果的な育成を図り課題解決力を養う。</p> <p>全教育活動を通して生徒が自己のキャリア形成を日々の学びの中で自覚し、さらに将来、主体的に社会に参画し自己実現を果たせるよう、自己のキャリア形成を意図的に図れる資質・能力を培う。</p>	<p>授業目標・課題を明示し、生徒の興味を引き出し、受け身の暗記・再生ではなく、目標・課題に向けて思考・判断を伴う知識・技能の活用を図り、達成感の得られる授業の工夫・改善を行う。</p> <p>各教科領域において、学び合いやグループ学習により、自身の意見や考えを伝えられるように、発表の場を増やし、対話的・協働的に課題解決を図る授業を展開する。</p> <p>生徒が ICT 端末を学びを手段として積極的かつ日常的に活用することで、新しい多機能な「文房具」として自由な発想で活用できるような環境を整え授業をデザインしていく。生徒が ICT を適切・安全に使いこなす情報活用能力の育成、及び情報モラルの育成を図る。</p> <p>ICT やタブレット端末を効果的に活用するなど学校と家庭の双方において個々の学習ニーズや学習スタイルに応じた個別最適な学習を可能にする支援・指導を行う。また学力不振生徒に対しては補充学習等の充実を図る。生徒自身が自らに合った学習の進め方や学び方を考えたり、選択することができるように支援・指導する。</p> <p>生徒自身が各教科や学校の学びを、将来に役立たせ自己のキャリア形成に生かせるように指導の工夫を行う。 キャリア・パスポートの効果的な活用により生徒の自己理解の深化と自覚的・意図的なキャリア形成を促し支援を図る。</p>	<p>自ら学ぶ意欲</p> <p>協働的な学び</p> <p>ICT機器の活用</p> <p>個別最適な学び</p> <p>キャリア形成自己実現</p>	<p>1</p> <p>2</p> <p>3</p> <p>4</p> <p>5</p>	<p>4.1</p> <p>4.2</p> <p>3.4</p> <p>3.6</p> <p>3.7</p>	<p>3.8</p> <p>3.6</p> <p>3.3</p> <p>3.1</p> <p>3.3</p>	<p>3.9</p> <p>3.5</p> <p>4</p> <p>3.9</p>	<p>3.8</p> <p>3.6</p> <p>3.3</p> <p>3.2</p> <p>3.4</p>	<p>各授業の中で、引き続き、生徒の興味・関心を見取りながら、各々生徒が主体となって学習する場面をより多く設けていく。また、生徒の評価の数値が後に下がることのないように、各自の興味・関心や目標を適時確認しながらきめ細かく指導を積み重ねていく。</p> <p>グループなどにより学び合いの機会を増やし、互いに支え・支えられながら課題解決する形を浸透せしめ、ともに、より深い学びが得られる学び合いの形態を工夫・実施していく。平均の評価が年間をおとして4を超えられることを目指す。</p> <p>ICTおよびタブレットの活用は、今年度2度にわたって実施されたオンライン授業である程度定着した。上級生を中心にさらにこれらの活用を工夫した指導の充実を学校全体として取り組む必要がある。</p> <p>年間を通じて2回にわたって実施されたオンライン授業の結果、タブレットの活用が各自の興味と理解の度合いに応じて個別に対応することに適していることが実証された。次年度もさらに有効に活用を進めることで、個別の学びの意欲をさらに高めることを目指す。</p> <p>キャリアパスポートのより一層の活用を図り、現在の学びと自分の将来のキャリア形成とのつながりを意識させることで、学びに対して一層の意欲を喚起する。</p>	<p>3.9</p> <p>4.2</p> <p>3</p> <p>3.3</p> <p>3.7</p>	<p>・アンケート結果からも生徒が意欲的に授業に取り組んでいる様子がわかります。</p> <p>・従来の受動的な知識獲得を中心とした学び以上に、生徒の自ら学ぶ意欲を生かした主体的な学びの重要性は、保護者からも一定の理解も得られているように思います。</p> <p>・協働的な学びには、まず自らの推論を仲間とすり合わせ修正を繰り返す過程が大切であり、間違いや誤りはつきものであり、必要不可欠なものであると思います。ぜひ間違いを恐れない学習環境を整えていただければと思います。</p> <p>・ICTも始まったばかり、変化する社会に必要なツール。積極的活用に向けています。</p> <p>・トリアル＆エラーで上達するしかないのを、常に前向きにチャレンジしていただきたいと思っています。</p> <p>・タブレットによる教室及び家庭における個別最適な学習と対話的な学習をうまく組み合わせ教育効果をより高めたいと思います。</p> <p>・タブレット活用、補充学習等が改善がまだまだ出来るところと思います。</p> <p>・学校の教科の学びは将来の実生活には一見、直接には役立たないように見えて実は視点を変えれば様々な面で役立つように思います。それらの視点や授業の中で意識的に生徒に気づかせることを実践する価値はあると思います。</p>																														
												豊 か な 人 間 性	<p>あたたかな環境と信頼関係のもと、互いの個性や人格を尊重する心や自他のよさを引き出し高め合える「豊かな人間性」を育む。人権教育と道徳教育の充実を図る。</p> <p>いじめ防止対策推進法に基づき、学校・地域住民・家庭その他関係者の連携の下、いじめの問題克服に向けて取り組みを行う。</p> <p>あたたかな環境と信頼関係のもと、互いの個性や人格を尊重する心や自他のよさを引き出し高め合える「豊かな人間性」を育む。人権教育と道徳教育の充実を図る。</p> <p>いじめのないあたたかな環境と良好な関係を築き、生徒一人一人が自他の可能性やよさを発揮し、安心して学校生活が送れるようにする。</p> <p>様々な意見や考えを受け入れ、尊重しながら共に生きる、豊かな人間性や社会的意欲を育む。協働社会の担い手として、自己の果たす役割や共助の気持ちを育む。道徳教育の充実を図り、道徳的実践力を高める。</p>	<p>全教育活動における様々な体験活動の中で、あたたかな環境と信頼関係を築き、互いの人格を尊重し「思いやり」の心をもつて他の人に接することができる「豊かな人間性」を培う。「西東京市あったか先生」の取り組みを推進し、人権について考える機会を設ける。</p> <p>深い生徒理解に基づく生徒指導を推進し、いじめ撲滅と予防に向け、毎月アンケートを行い、情報を収集し早期の対応を図る。生徒会活動を通して、意識の向上を図り困っている人を見逃さず声を掛けをて助けられるような生徒の育成を行う。</p> <p>学校生活の中で、役割分担やお互いが責任を果たす経験を通して、自己有用感をもたせ共助の意欲を培う。自他のよさを引き出し高め合える生徒を育成する。道徳教育推進教師を中心に学年の全教員によるローテーション授業を行い指導力を高め、生徒のより深い道徳的理解や実践力の育成を図る。</p>	<p>思いやり</p> <p>良好な人間関係</p> <p>共助支援</p>	<p>6</p> <p>7</p> <p>8</p>	<p>4.2</p> <p>4.1</p> <p>4</p> <p>3.6</p>	<p>3.9</p> <p>3.9</p> <p>4.1</p> <p>3.6</p>	<p>4.2</p> <p>4.1</p> <p>3.6</p> <p>3.7</p>	<p>3.8</p> <p>4</p> <p>3.6</p> <p>3.7</p>	<p>生徒・職員ともに4点を超える高い達成度を示している良好な状況を次年度も維持し、さらに保護者にもその取り組みが伝わるといふようにより取り組みを適宜PRしていくことも必要であり、そのことがより循環を得られる結果につながるようになっていく。</p> <p>生徒・保護者・職員ともに4点を超えるこの状態を維持していくことが求められる。いじめアンケートなどで少しの変化も見落とすことなく、さらに良好な人間関係に基づく集団生活を送れるように配慮をしていく。また、意識的に良好な人間関係につながる交流の機会を多く設定していく。</p> <p>生徒が共助・支援を実感できるような場面と問いかけを増やす。また、学校生活の中で、当然のように行っている係活動なども個人として全体を支えるものであることを意識させ、よりいっそうの意識づけを図り、行動化を促す支援を行っていく。</p> <p>徐々に再開されるであろう行事の機会を利用して、生徒が積極的にかわる場面を設定して達成感を味わわせる指導を目指す。そして、さらに難度の高い課題にたち向かい、やり抜くことによる意欲を持つ多くの生徒を育成する。</p> <p>感染症等の予防対策やがん教育、食育の推進等による心身の安全・健康の保持増進に関する指導の充実を図る。また、保谷中独自の準備運動「保谷ステップ」を取り入れ体力向上の目標を明確に設定し、組織的な推進を図る。</p>	<p>4.1</p> <p>4.1</p> <p>4</p> <p>3.7</p>	<p>・他人を理解し、自分の意見を言える様になることは今後とても大事なことです。いっそう力を入れてほしいと思います。</p> <p>・みんな同じでなくても良い、違ってもそれを受け入れて容認できるようになってほしいです。</p> <p>・いじめのアンケートを毎月実施され、その取り組みがいくらか求められている。いじめアンケートなどで少しの変化も見落とすことなく、さらに良好な人間関係に基づく集団生活を送れるように配慮をしていく。また、意識的に良好な人間関係につながる交流の機会を多く設定していく。</p> <p>一人でも出来る事は限られます。共に行うことの大切さを体感してもらいたいです。</p> <p>・学校生活の振り返り時間をつくり、仲間と関わりながら頑張ったことや嬉しかったことを書かせてみてはどうでしょう。自己肯定や共助の意識醸成につながると思います。</p> <p>・従来の行事が十分に行えない状況の中でも、がんばっている生徒達は「やり抜く力」あると思います。</p> <p>・できる範囲で生徒たちが主体となって企画・実践した行事だからこそ生徒の充実感や自己有用感を引き出すことができたことと思います。</p> <p>・感染症予防対策に万全を期して健康に登校できる環境整備を続ける。また、「保谷ステップ」の取り組みを継続して、生徒一人一人の健康の維持と体力向上につなげる。</p>																		
																								健 全 な 心 と 体 力	<p>生徒が自ら創り上げる生徒主体の行事等を成功させ、達成感や自己肯定感を育み、やり抜く力を培う。</p> <p>健康で安全な生活と豊かなスポーツライフの実現を目指した教育の充実に向け、各教科・領域において体力増進、心身の健康、食育など、健康に関する指導の充実を図り、生涯を通じて健康・安全で活力ある生活を送れるように支援を行う。</p>	<p>生徒主体の行事を通して、生徒が自ら企画・運営し、生徒が積極的に参加し取り組める場面を多く取り入れる。その課程で達成感や自己肯定感を育み、生徒が自主的に行動し最後までやり遂げる、やり抜く力を培う。</p> <p>感染症等の予防対策やがん教育、食育の推進等による心身の安全・健康の保持増進に関する指導の充実を図る。また、保谷中独自の準備運動「保谷ステップ」を取り入れ体力向上の目標を明確に設定し、組織的な推進を図る。</p>	<p>やり抜く力</p> <p>健康体力</p>	<p>9</p> <p>10</p>	<p>4</p> <p>4.1</p>	<p>3.9</p> <p>3.9</p> <p>3.7</p>	<p>4.2</p> <p>3.8</p> <p>3.7</p>	<p>・従来の行事が十分に行えない状況の中でも、がんばっている生徒達は「やり抜く力」あると思います。</p> <p>・できる範囲で生徒たちが主体となって企画・実践した行事だからこそ生徒の充実感や自己有用感を引き出すことができたことと思います。</p> <p>・感染症予防対策に万全を期して健康に登校できる環境整備を続ける。また、「保谷ステップ」の取り組みを継続して、生徒一人一人の健康の維持と体力向上につなげる。</p>									
																																	社 会 に 関 与 す る 心	<p>生徒の主体的な集団活動の中で、生徒が自ら集団の倫理を自覚的に高められるように支援する。集団活動の中で生徒一人一人が倫理感や責任感、自律心を向上させ、正しい判断に基づき行動できるようにする。</p> <p>生徒自らが進んで挨拶をし、お互いが気持ちよく過ごせるためのルールやマナーを尊重し実践できるようにする。集団活動の中で、集団や社会的規範の意義と重要性を理解し自他を律し規範に即して行動できるようにする。</p> <p>学校生活の様々な集団活動を通して、集団や社会のよさや意義を理解し責任と役割を主体的に担うように支援する。地域や社会で働く人々から直接あるいは間接的に学び、またボランティア活動等の体験を通して、社会に貢献する心や社会貢献の基本的行動を身に付けられるように支援していく。</p>	<p>物事の良し悪しの判断・挨拶・授業規律・時間厳守を生徒主体の集団活動の中で身に付けられるように支援する。生徒の自主・自律を目指し、集団内で自らを生かした責任ある行動がとれるように支援を行う。</p> <p>授業の始めや終わり、来校者への挨拶、普段から挨拶のある雰囲気や生徒が作り上げるよう支援する。学級活動や委員会等の集団活動を体験する中で、集団や社会における規範の意義と重要性を理解し自他を律し規範に即して行動できるようにする。</p> <p>学級活動や委員会等の様々な集団活動を通して、集団や社会のよさや意義を理解し責任と役割を主体的に担うように支援する。地域や社会で働く人々から直接あるいは間接的に学び、またボランティア活動等の体験を通して、社会に貢献する心や社会貢献の基本的行動を身に付けられるように支援していく。</p>	<p>正しい判断</p> <p>あいさつ規範意識</p> <p>社会に貢献する心</p>	<p>11</p> <p>12</p> <p>13</p>	<p>4.4</p> <p>4.3</p> <p>4</p>	<p>4.4</p> <p>3.8</p> <p>3.3</p>	<p>3.9</p> <p>3.7</p> <p>3.3</p>	<p>授業をはじめ、生活のあらゆる場面を下した判断についてよい、またよくなければなぜそうなのかを助言したり、よい判断にはより積極的な価値づけを行っていく。これを継続することで自ら正しい判断のできる力を身につけさせる。</p> <p>比較的よく取り組んでいる校舎内で交わす普段のあいさつは継続し、加えて朝と帰りの学活、授業の開始と終了といった場面でのあいさつも、より心を込めるよう支援する。</p> <p>・保谷中のよき伝統を引き継ぎ、生徒はよくあいさつできていると思います。</p> <p>・先生をはじめ生徒達も来校した際は、元気に挨拶をし続けています。これからも自ら進んでやってほしいです。</p> <p>・地域のボランティア活動の機会がほとんどなかった中、中学生が小学校に向かい小学生に勉強を教えるリトルリーダーの取り組みはとても意義あるものと思いました。今後継続してほしいです。</p>